



— ふくしまの未来のために復興を支援します —

一般財団法人 ふくしま市町村支援機構

災害復旧

「浪江町コミュニティ広場」が竣工しました

平成27年3月に整備された浪江町営大平山霊園の隣に、コミュニティ広場が竣工しました。町外に避難している方と町内で生活している方がお墓参りの際に再会する場所として、また、津波で流失した公民館や集会所に代わる集いの場所として、町民同士の交流に役立つことが期待されています。



浪江町では現在も避難指示が継続しており、避難指示解除準備区域を拠点として、復興まちづくりが進められています。

平成28年3月に竣工した当該施設は、防災集団移転促進事業と連携し復興に相乗効果をもたらす「市街地復興効果促進事業」の一環として整備されました。海が一望できる場所に位置し、ゆったりと休憩できる屋根付きベンチや、環境に優しいソーラー照明灯が設置されています。広場内には今後、慰霊碑も建立される予定です。避難指示が続く中でも、お盆やお彼岸には多くの町民がお墓参りに訪

れており、町民同士のふれ合いの場として役立つものと期待されています。

当機構は当該施設の工事管理を担当しました。浪江町の担当課からは、「短期間での完成が求められる復興復旧工事では、各種工事との工程管理が難しく、工期が大きく遅延する事例が多く発生しています。そのような中、適正な工事管理に努めてもらい、感謝しています。」とのお声を頂戴しています。

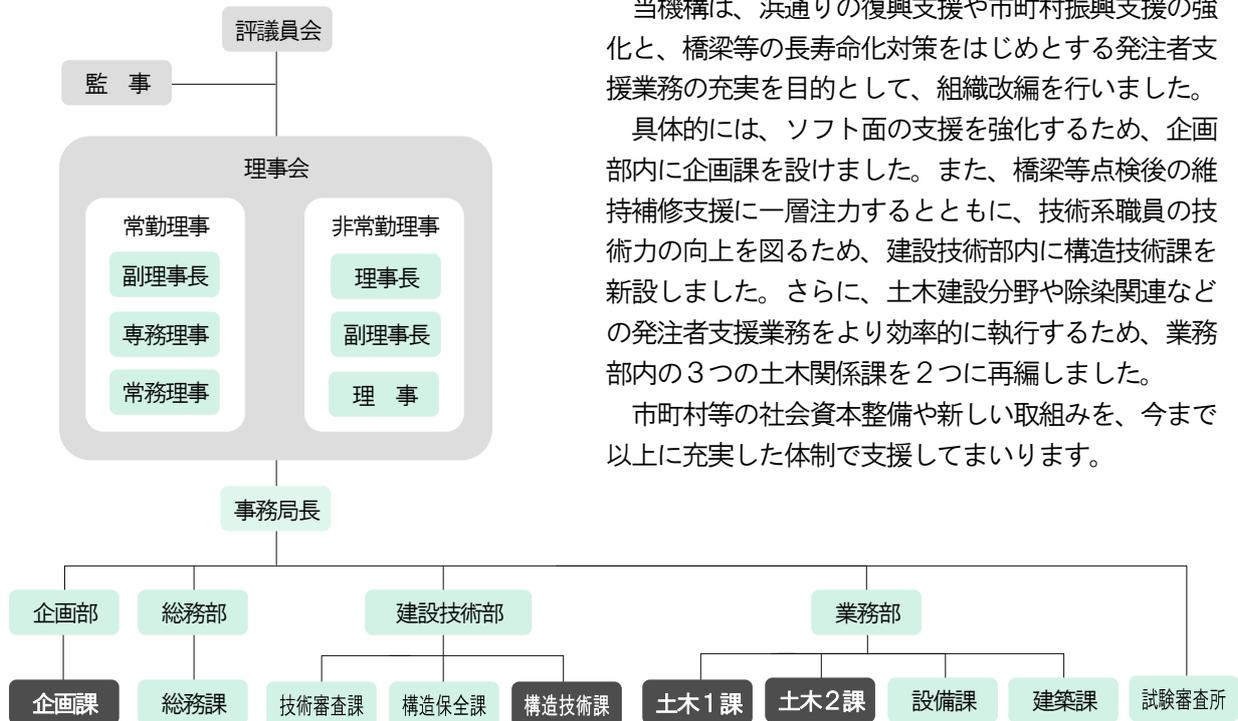
お問合せは 土木 1 課 ☎ 024-522-5122 まで

Contents

- 支 援 ② 市町村等の支援を強化するため組織を改編しました
- 橋 梁 ③ 伊達市「大手橋」の橋梁補修工事が完成しました
- 建 築 ④ 須賀川地方広域消防組合の湯本分遣所新庁舎が竣工しました
- 材料試験 「土木技術の基礎講座」で材料試験を見学していただきました
- 道 路 ⑤ 小野富岡線「鍋倉トンネル」が開通しました
- 支 援 設計積算システムワンポイントアドバイス ～その⑦ 現場打ち集水柵編～
- 職員紹介 ⑥ 業務部土木2課長 茂木 晴美さん、試験審査所長 大越 雅城さん
- 地域情報 ⑧ ふくしま街道・川ものがたり ～沼田街道 気多宮から檜枝岐まで～

市町村等の支援を強化するため組織を改編しました

当機構は平成28年4月1日付けで組織改編を行い、企画部企画課及び建設技術部構造技術課を新設するとともに、業務部内の土木関係課を再編しました。



当機構は、浜通りの復興支援や市町村振興支援の強化と、橋梁等の長寿命化対策をはじめとする発注者支援業務の充実を目的として、組織改編を行いました。

具体的には、ソフト面の支援を強化するため、企画部内に企画課を設けました。また、橋梁等点検後の維持補修支援に一層注力するとともに、技術系職員の技術力の向上を図るため、建設技術部内に構造技術課を新設しました。さらに、土木建設分野や除染関連などの発注者支援業務をより効率的に執行するため、業務部内の3つの土木関係課を2つに再編しました。

市町村等の社会資本整備や新しい取り組みを、今まで以上に充実した体制で支援してまいります。

■各課窓口（※組織改編に伴い一部の課の電話番号を変更しましたのでご注意ください。）

| | | | | | |
|-------|-------|--------------|-------|------|--------------|
| 企画部 | 企画課 | 024-572-6325 | 業務部 | 土木1課 | 024-522-5122 |
| 総務部 | 総務課 | 024-522-5123 | | 土木2課 | 024-522-3095 |
| 建設技術部 | 技術審査課 | 024-572-6321 | | 設備課 | 024-522-5121 |
| | 構造保全課 | 024-597-7063 | | 建築課 | 024-522-5124 |
| | 構造技術課 | 024-572-6321 | 試験審査所 | | 024-934-8700 |

■測量業者未登録問題についてのお詫び

このたび、当機構の測量業務の手法が測量法に抵触していたことが明らかとなりました。測量法では、公共測量など精度の高い測量を業として受託するには業者登録が必要であると定めていますが、当機構は業者登録をしないまま業務を受託していました。日頃から御支援いただいている皆様にも多大なる御迷惑と御心配をおかけしましたことに対し、心からお詫びを申し上げます。

公共測量の受託実績は平成23年度からの5年間で72件あり、これらの業務については業者登録を

している協力業者が測量作業を行っているので業務そのものは適正に行われたものと考えていますが、成果の正確性・妥当性には大きな関心が寄せられるところであり、現在（公社）日本測量協会の協力を得て検証を進めています。

今後、問題の発生原因の究明や責任の所在の明確化、再発防止策の策定などを早急に行うとともに、コンプライアンスを遵守した体制づくりに努め、二度とこのようなことのないよう業務に取り組んでまいります。

伊達市「大手橋」の橋梁補修工事が完成しました

平成28年3月28日、市道金子町町田線「大手橋（L=24.8m、W=8.0m）」の橋梁補修工事が完成しました。この橋梁補修事業は伊達市が平成26年から平成27年にかけて実施したもので、当機構は、大手橋の簡易点検から、補修設計、施工管理を受託し、橋梁補修工事を支援しました。

大手橋は、平成8年に架設され、建設当時から通勤・通学路、公共施設へのアクセス道路として広く利用されていましたが、老朽化が進行しており、橋梁簡易点検時から著しい損傷が見られ、橋梁長寿命化計画でも補修優先度の高い橋梁と位置づけられていました。補修設計に当り、床版・桁のコンクリートの凍害を原因とする剥離、欠損に起因する内部鉄筋腐食が確認されたことから、上部工コンクリートの健全度を確認するため試験体を採用し、中性化試験（中性化は内部鉄筋の腐食を進行させる原因となる）、コンクリート圧縮試験、さらに、採取した鉄筋の腐食状況と鉄筋径の減少率を確認し、復元構造計算に基づく残存耐荷力の照査を行いました。

大手橋は3径間の橋梁であり、対策工法を各径間ごとに検討し、第1径間は、コンクリートの圧縮強度が低下しており、応力度が許容応力度を超過することから架替え工法とし、第2・3径間は、圧縮強度が基準値の8割程度確保されていることから現橋を活用する断面補修工法を採用しました。また、損傷の主たる要因が雨水等の水処理であることから、雨水処理として橋面防水等の排水設備の対策、さらに、下部工の欠損部の修復も行っています。社会資本は、“今あるものを効率よく長く使う。”、言い古された言葉ですが、今回の事例は、道路管理者の意向を踏まえ、今後の社会資本整備の方向性を示すものとなりました。



■ 橋梁補修概要

箇所名：伊達市霊山町掛田字金子町地内
 補修概要：上部工架替え（A1-P1）
 上部工断面修復（P1-P2, P2-A2）
 下部工断面修復
 伸縮装置交換
 防護柵打替え
 親柱復旧

道路構造物の老朽化が静かに進行しており、老朽化対策が今日的課題として取り上げられています。このような状況から、平成26年度から5年ごとの橋梁詳細点検が義務化され、社会資本の長寿命化が求められています。当機構では、今後も、市町村の皆様が行う橋梁事業に関わる調査・計画・設計・工事関連業務を支援してまいります。



補修工事着工前



補修工事完了後

お問い合わせは 構造技術課 ☎ 024-572-6321 まで

須賀川地方広域消防組合の湯本分遣所新庁舎が竣工しました

須賀川地方広域消防組合の長沼分署湯本分遣所新庁舎が平成28年4月に竣工しました。当機構は、施設の設計及び工事監理について支援を行いました。



(左) 新庁舎外観 (右上) 車庫 (右下) 出動準備室

昭和51年に建設された旧庁舎は、平成22年9月に天栄村湯本地区で発生した直下型地震と東日本大震災で大きな被害を受けました。また、当該施設は地域の防災拠点に位置づけられており、耐震性能の確保が課題となっていました。

このたびの建替えでは、耐震性の強化に加え防災・消防・救急機能の拡充にも注力しました。

まず、出動準備室と訓練用バルコニーを新設しました。また、強制換気システムを導入して車庫内の作業環境を改善したほか、屋根には落雪対策としてルーフヒーターを備えています。仮眠室の個室化も実現し、職員にとってもより働きやすい庁舎に生まれ変わりました。

お問い合わせ 建築課 ☎ 024-522-5124 まで

材料試験

「土木技術の基礎講座」で材料試験を見学していただきました

平成28年5月24日から26日までの3日間、平成28年度市町村建設事業等担当職員研修の第1弾「土木技術の基礎講座」を開講し、最終日に当機構試験審査所で材料試験の見学等を行いました。



鉄筋引張試験を見学する研修生のみなさん

本講座は「土木行政一般」をはじめとする10科目からなり、最終日の科目「材料試験について」で実際の試験を見学していただいています。

今回はコンクリート供試体の圧縮試験や鉄筋の引張試験を実施しました。強度の高いコンクリート供試体の破壊状況や、異形棒鋼では国内最大径であるD51の破断状況などは普段接する機会が少ないので、興味深かったのではないのでしょうか。

試験審査所では、試験方法や試験の見学等、建設材料試験に関する様々な相談を承っています。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ 試験審査所 ☎ 024-934-8700 まで

小野富岡線「鍋倉トンネル」が開通しました

平成28年6月20日、主要地方道小野富岡線「鍋倉トンネル（L=306.0m、双葉郡川内村）」の開通式が行われました。当機構は、積算業務を受託するとともに、トンネル専門技術委員会の委員を務め、鍋倉トンネルの整備を支援しました。

主要地方道小野富岡線は、田村郡小野町を起点として双葉郡富岡町に至る延長約50kmの幹線道路で、国道114号や国道288号など主要な8路線からなる「ふくしま復興再生道路」の一つとして、重点的に整備が進められています。

今般、改良区間全延長4,380mのうち、鍋倉トンネルを含む540mの区間の供用が開始されました。工区全体は平成30年代前半の完了を目指しています。

本路線は震災以降、復旧・復興事業等で交通量が増えています。線形が不良な上、幅員が狭小であることから、特に冬期の通行に支障を来しています。新道の開通は、安全かつ円滑な交通の確保と、浜通り地方～中通り地方間の交通の利便性向上につながるとの期待が寄せられています。

当機構は、今後もトンネル事業に係る調査・計画・設計・積算・工事管理等を支援してまいります。



お問い合わせは 土木1課 ☎ 024-522-5122 まで

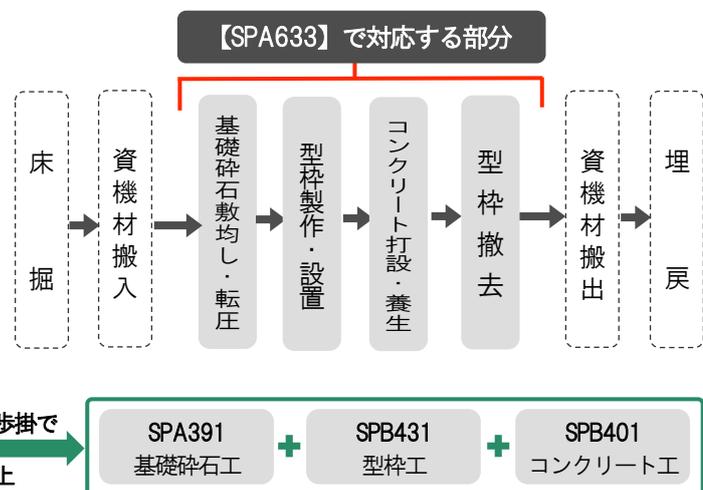
設計積算システムワンポイントアドバイス ～その⑦ 現場打ち集水桝編～

施工パッケージ型積算方式における現場打ち集水桝の歩掛として、基礎砕石・型枠・コンクリート打設が一体となった「SPA633」がありますが、適用に当たっては以下の条件に留意したいところです。

ワンポイント
SPA633は、基礎砕石の有無にかかわらず適用できる。

- SPA633を適用できない場合
- ①コンクリート打設地上高さが2mを超える場合
 - ②集水桝1箇所当りのコンクリート使用量が0.30m³未満、又は3.43m³を超える場合
 - ③基礎砕石の敷均し厚が20cmを超える場合

■現場打ち集水桝の施工フロー



お問い合わせは 土木2課 ☎ 024-522-3095 まで

本コーナーでは、個性あふれる当機構職員のありのままの姿をお伝えします。
連載第10回目の今回は、平成28年6月1日付で課長職に昇任した、業務部土木2課長 茂木晴美さんと試験審査所長 大越 雅城さんを紹介します。



「担当業務は変わらないけれど、責任の重さを改めて感じています。」

業務部 土木2課長

茂木 晴美

34年目 課長として覚悟新たに

本年6月に業務部土木2課長へ昇任した茂木晴美（もぎ はるみ）さん。昭和58年に就職して以来、河川・砂防・道路・橋梁・トンネルなどあらゆる分野の設計・積算業務を経験してきた。

茂木さんが率いる土木2課は、道路・橋梁等土木一般の設計・積算・工事管理などを担当している。本年4月の組織改編で土木関係課が再編されたが、茂木さんのチームが担当してきた業務は引き続き土木2課の所管となった。業務内容に変化はなく、部下に仕事を振り分けることも、昇任前から副課長としてチームを引っ張ってきた茂木さんにとっては経験済みだ。しかし、「課長ともなれば今までとは覚悟が違う。」と茂木さんは言う。

「部下に指示を出すこと自体は副課長の頃から行ってきましたが、当時は“課長の指示”が前提でした。所属課の長となり指示を仰ぐ上司がいなくなった今、人材をマネジメントすることの難しさと責任の重さを改めて感じています。」

一人一人に声を掛け風通しよく

適材適所はもちろんだが、仕事をしやすい環境をつくることもまた茂木さんの大事な仕事だ。

「土木2課には、市町村からお預かりしている研修生や派遣職員など多様な人材がいます。不満や悩みがあれば抱え込まずに吐き出してほしい。風通しのよい課になるように、一人一人に対して自ら声を掛けるようにしています。」

組織改編に伴って課の人数が少なくなったこと

もあり、課内のコミュニケーションがとりやすくなったこともプラスだと感じている。経験豊かなベテラン職員が異動で増え、若手職員を育てる環境も充実した。新生土木2課の未来は明るい。

いつでも頼っていただける存在でありたい

茂木さんにとって特に強く印象に残っている仕事が、南相馬市にあるみちのく鹿島球場の災害復旧だ。災害査定支援では、発注者に代わって査定官や立会官の方々に施設の被害状況や復旧費用の妥当性などを説明した。

「東日本大震災で受けた被害を正確に説明するためには、被災前の状況をつぶさに確認し、被災前には壊れていなかったことを証明しなければなりません。説明資料の作成は困難を極めました。設計書や被災前の写真を頼りに何とか作り上げ、無事に査定を終えることができました。その後も災害復旧工事の設計・積算・現場管理に携わり、完了まで見守り続けたので、こけら落としの試合を見に行った時はまさに感無量でした。」

震災以降、今までご縁のなかった市町村からも御相談をいただくようになった。そうして受託した業務も既に完了しているが、茂木さんは今でも時折、当時お世話になった担当者を訪ねている。

「また何かお役に立てることがあれば嬉しい。今後ともいつでも頼っていただけるように、ご縁を大切にしたい。」との思いからだ。茂木さんが舵をとる土木2課なら、磨きのかかったチーム力でどんな難題にも立ち向かっていけるに違いない。

「試験審査所の“見える化”、 新境地開拓——やりたいこと が山積みです。」

試験審査所長

大越 雅城



試験審査所歴17年 一番の古株

試験審査所長の大越 雅城（おおこし まさき）さんは、申年生まれの47歳。副所長を2年務めたのち、本年6月に所長に昇任した。試験審査所の業務は大きく分けて、建設材料試験、建設材料の調査研究、除染業務の発注者支援、の3種類あり、大越さんはこれら3業務の統括を担う。

平成3年に就職してからの約7年間は、河川・砂防の設計・積算を担当してきた。転機は平成11年に訪れた。当機構が県から引き受けた試験研究所を郡山市富田町に開設した時、そのスタートメンバーに抜擢されたのだ。以来、試験審査所一筋で仕事に邁進してきた。今試験審査所にいる職員の中では、一番の古株といえる存在だ。

“見える化”してイメージを変えたい

所長になって特に変わったと感じるのは、自身に課された責任の重さだ。これからは自分が、部下の声に耳を傾けながら試験審査所を発展させる策を打ち出していかねばならない。しかし、ここで気負わないところが大越さんらしい。

「部下を守るという重責はあるけれど、自分が理想とする試験審査所へと向かう、そのロードマップを描ける立場にいるということでもあります。」



休日に野球を楽しむ大越さん

やりたいことは既に山積みだ。中でも特に「なんとかかしたい。」と思っているのが、多くの人が試験審査所を“よくわからないところ”だと思っているということだ。

『試験審査所』という名前だけ聞くとなんとなく地味で暗いイメージですよ。試験審査所が一体何をやっているのかを“見える化”して、『よくわからない』とか『地味』・『暗い』といったイメージを払拭したいと思っています。」

具体的に何をするか、現在アイデアを練っているところだと言う。今後の展開が楽しみだ。

試験審査所の新境地を開拓する

試験審査所の業務の枠を拡げることにも意欲を燃やしている。現在企画中の新業務の一つは、橋梁の詳細点検に係る試験業務だ。必要な試験機や人材を整備するべく奔走している。

このほかにも、試験審査所が市町村等のお役に立てることはもっといろいろあるはずだと考えている。

「困っていることがあれば何でも気軽に相談していただきたいですね。また、相談していただけるように、試験審査所自身も組織として成長していかなければいけません。」

当「支援機構だより」の編集委員も務めている大越さん。編集会議では毎度、明るいキャラクターで場を和ませると同時に、面倒見のよさを発揮して、自身の担当外の記事についても沢山意見を寄せてくれる。

この面倒見のよさはプライベートでも変わらない。息子さんの野球部の父兄会副会長を務め、休日には練習試合の審判をやることも。PTAではこの春、副会長から会長に昇任した。

公私ともに新リーダーとして奮闘する大越さん。試験審査所を盛り立てさらに進化させていってくださるであろうことは、疑う余地がない。

ふくしま街道・川ものがたり ～沼田街道 気多宮から檜枝岐まで～

福島県を走る街道と川を軸に、県内各地の歴史と文化を紹介する「ふくしま街道・川ものがたり」。今回は、会津と上州をつなぐ沼田街道の歴史と今について紹介します。

会津から尾瀬沼を通過して上州に至る伊北（いほう）街道、伊南街道、上州道は、昔から会津と上州を結ぶ交易路として栄えてきました。明治14年、この3つの街道が1本化され、気多宮（けたのみや）から群馬との県境をつなぐ県道となり、「沼田街道」と名付けられます。只見川沿いを走る伊北街道は叶津で伊南街道に合流し、伊南街道は山口で上州道に接続して、NHK大河ドラマ「真田丸」の舞台となる上州沼田へとつながっていました。

近世のこの道筋は宿場とともに整備されますが、荷駄輸送の宿場の口銭を不要とする制度も整備され、交易が盛んになりました。自給自足が難しい高冷地の人々は、林産物を馬につけ若松へ運び、米、味噌、酒などを調達していました。さらに、その米や酒の一部を、尾瀬沼の岸の小屋を経由して上州へ送り、上州からは塩や油などを得ていました。



沼田街道の起点・気多宮には、今も道の片隅に等身大の道標が残されています。戊辰戦争時の弾痕をその背に残しながら、くっきりと刻まれた「是よ里左柳津路」の文字で旅人を南西へと導いてくれます。

会津坂下IC交差点で国道49号と別れ、国道252号へ入ると、来る者を拒むかのように川岸までせり出した痩せ尾根が只見川の兩岸を取り囲むなか、金山谷（かねやまだに）の底を這うようにして、街道は南へと向かいます。近世までの伊北街道には至る所に難所があり、右に担いだ鞆（うつぼ。矢を収めた筒。）を左に担ぎ直さなければ通れないことから名がついた絶壁の「左鞆」（三島町宮下字左鞆）、うっかりすると股まで沈むほどぬかるんでいる「足ねた」（金山町西谷地内）などはその代表的な例でした。



難所の多さとともに人々を苦しめたのが、頻発する只見川水系の水害でした。街道は、できる限り難所を避けるため川の左岸と右岸を行ったり来たりしていたので、只見川や伊南川の支流には街道の一部として橋が架けられていました。しかし洪水で度々流失し、その都度人馬の往来が途絶えたと言います。

只見川から伊南川、檜枝岐川へと、川に沿って街道を南進すると、道は緩やかな上り坂となって、尾瀬の里・檜枝岐に至ります。標高が高いうえ林野が多いこの地の人々にとって、会津や上州との交易が生活の糧となっており、沼田街道は生活の道としての役割を果たしてきました。それでも、凶作の時などには幼い命を守りきれなかった史実があり、いつの時代からか街道の脇に、慈悲の心にすぎるべく六地藏が安置されています。会津と上州沼田とを結んだこの生活の道は、現在、大きく変貌し、尾瀬を楽しむ遊山の道となっています。道の歴史を見つめてきた六地藏は、今でも道を行き交う人々を慈悲のまなざしで見守っています。

参考文献

- 金山町史出版委員会編（1974）『金山町史 上巻』、金山町史出版委員会編（1976）『金山町史 下巻』
- 酒井淳著（1982）『沼田街道（承前） 内川より檜枝岐まで』会津史学会編『歴史春秋 第15号』所収
- 笹川壽夫編著（2006）『会津の峠 下』、檜枝岐村編（1970）『檜枝岐村史』
- 福島県教育委員会編（1986）『『歴史の道』調査報告書：沼田街道 六十里越・八十里越・銀山街道』
- 星光祥（2012）『檜枝岐道物語』、丸井佳寿子（2003）『歴春ふくしま文庫60 街道・宿駅・助郷』

ふくしまの復興を
支援しています



【相談専用 TEL】 024-597-7044

【編集・発行】 〒960-8043 福島県福島市中町 7-17 一般財団法人ふくしま市町村支援機構

TEL : 024-522-5123 FAX : 024-522-3631 E-Mail : info2@fctc.or.jp URL : <http://www.fm-so.org/>